

社会基盤分野推進戦略の骨子(案)

1. 分野の状況と重点領域及び推進方策

分野の状況	<p>欧米の社会基盤をモデルとした研究開発と整備に全力投球</p> <p>しかし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●異常自然災害の多発、信じられない災害や事故、減らない交通事故 ●成熟社会での質の高い生活の実現が課題 ●日本の経験を活かした国際協力が必要
重点化の考え方	<p>○安全の構築 人智を尽くした巨大災害被害軽減対策と、安心して日常生活を営める環境づくりに資するものを中心とした研究開発</p> <p>○国土再生と Quality of Life (QOL) の向上 美しい日本の再生と生活の質を高める社会基盤の創成に資する研究開発</p> <p>○国際協力 産業の牽引力となることが期待される国際協力活動の研究開発</p>
重点となるべき領域・項目	<p>○安全の構築 異常自然現象発生メカニズム、 発災時即応システム(防災 IT 等)、 過密都市圏での巨大災害被害軽減対策、 中枢機能及び文化財等の防護システム、 超高度防災支援システム、 高度道路交通システム(ITS)、 陸上、海上および航空交通安全対策、 社会基盤の劣化対策、 有害危険・危惧物質等安全対策</p> <p>○美しい日本の再生と質の高い生活の基盤創成 自然と共生した美しい生活空間の再構築、 広域地域課題、 流域水循環系健全化・総合水管理、 新しい人と物の流れに対応する交通システム、 バリアフリーシステム、 ユニバーサルデザイン化</p> <p>■開発途上国の社会基盤づくりへの主体的研究開発協力</p>
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会系研究者と科学技術系研究者の協働促進 ・行政横断的領域の研究開発の充実 ・開発途上国における持続的発展を可能にする社会基盤形成の研究開発促進 ・国際協力活動による国際競争力を高めるための研究開発の推進

2. 重点領域における研究開発の目標

①安全の構築

項目	5年間の研究開発目標
異常自然現象発生メカニズム	異常自然現象発生(強震動、局地豪雨、及び要監視火山を中心に)の予測信頼性向上 平成16年度までに、活断層や海溝型地震の長期評価、全国を概観した地震動予測地図の作製の終了
発災時即応システム(防災IT等)	各省庁(内閣府、総務省、国土交通省他)データのシームレス化と国民への情報提供システムの研究開発を完了 防災用光ファイバ通信システムの研究開発を実施
過密都市圏での巨大災害被害軽減対策	高度危険区域及び施設での要素技術研究完了、技術体系の樹立、社会システム研究を実施
中枢機能及び文化財等の防護システム	要素技術開発及びシステム構想立案
超高度防災支援システム	次世代の防災支援システムの構想研究と要素技術の研究開発
高度道路交通システム(ITS)	ITSのうち安全の向上に資する走行支援道路システム(AHS)、先進安全自動車(ASV)、及びそれらを支える情報通信技術の研究開発を実施
陸上、海上および航空交通安全対策	道路交通事故の年間の24時間死者数を 8,466 人* ¹ 以下、海難及び船舶からの海中転落事故による死亡・行方不明者数を 200 人以下に低減
社会基盤の劣化対策	大規模構造物(ライフラインを含む)の劣化監視・倒崩損壊事故防止技術および社会基盤の補修・長寿命化技術の確立
有害危険・危惧物質等安全対策	交通公害、汚染物質、シックハウス、病原性微生物、放射性物質、水質汚染事故等の対策の確立

*1 交通安全基本法施行以降の最低死者数(昭和54年)

②美しい日本の再生と質の高い生活の基盤創成

項目	5年間の研究開発目標
自然と共生した美しい生活空間の再構築	建物、街並み、公共施設等を有機的、或いは一体的に改善する技術・システム研究開発、社会システム研究を実施
広域地域課題	10 地区、3ベイエリア* ¹ 、5海域* ² の研究
流域水循環系健全化・総合水管理	重要な水系、主要中小都市数河川、地盤沈下指定地区* ³ 、及び世界数河川の流域の水循環系の健全化の研究開発を実施
新しい人と物の流れに対応する交通システム	次世代の新しい人流・物流システムの構想研究と要素技術の開発及びシステム研究を実施し、生活の質を向上するITSの研究開発と国際標準化研究を推進
バリアフリーシステム	所管を越えた空間のバリアフリー化の要素技術及びシステム研究を実施
ユニバーサルデザイン化	社会性の高い生活及び社会基盤分野科学技術に関する技術等のユニバーサル化要素技術開発

*1:東京、大阪、名古屋、 *2:東京湾、大阪湾、伊勢湾、有明海、瀬戸内海

*3:首都圏、淀川流域、木曾川流域、新潟平野